

## 令和5年度士別市総合教育会議（第1回） 会議録

- 1 日 時 令和5年6月29日（木） 午後4時10分～5時10分
- 2 場 所 士別市役所2階 庁議・来賓室
- 3 出席者 **【構成員】** 渡辺市長、中峰教育長、馬場教育長職務代理者、加藤教育委員、  
山田教育委員、多田教育委員
- 【事務局】** ・教育委員会 三上生涯学習部長、須藤学校教育課長、徳竹合  
宿の里・スポーツ推進課長、清水社会教育課主  
査
- ・総務部 大橋総務部長
- 4 報 道 2名（道北日報社・北都新聞社）
- 5 次 第 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
- (1) 令和5年度士別市教育推進の重点について
- (2) 中学校部活動のあり方の検討について
- (3) 朝日地区における義務教育学校について
- (4) 教科用図書採択について
- (5) 各種スポーツイベントの開催について
- (6) 各スポーツ・文化施設について
- 4 その他
- 5 閉会

---

### 1 開会

#### ●三上生涯学習部長

はじめに、渡辺市長からご挨拶いただき、その後、議長として進行願う。

## 2 あいさつ

### ●渡辺市長

#### あいさつ要旨

夏本番を迎え、スポーツイベントがホクレンディスタンスチャレンジを皮切りにスキージャンプの3連戦、7月23日にはハーフマラソン大会が開催される。

本日は次第にあるとおり、6つの項目について協議させていただきたい。

まずは、令和5年度の教育推進の重点について、その次に今後進めていかなければならない中学校部活動のあり方の検討について、朝日地区における義務教育学校についてなど、現状を交えながら意見交換を行いたい。

## 3 協議事項

### ●渡辺市長

(1)「令和5年度士別市教育推進の重点」について、説明を願う。

### ●中峰教育長

学校教育について、ICT機器活用の推進については、東高校のICT環境整備に遅れが生じているため、早急にその対応について調査検討を進めている。次に、デジタル教科書については委員からも活用状況を見たいとの意見をいただいております、学校と日程を調整し、どのように使われているのかを見る機会を設定する予定である。次に、ALTや外部人材による学習活動の充実について、ALTは3月に小学校で活動していたケイティ先生がアメリカに一時帰国され、その部分を補う形として中学校を担当しているサム先生の奥さんをお願いをして小学校での指導を行っていただいている。外部人材の活用については、多寄地区では協力していただけるという地域の方がいながらも、現状の道教委の枠組みでは活用できないという状況があり、場合によっては市費での対応を含め、そのマッチングを実現していきたい。

次に、組織力と連携の強化のもとでの学校教育の推進について、まず教育委員会内部の体制として、指導主事、学校教育・社会教育の両アドバイザーそれぞれに、スキルや経験を発揮していただき、想定外のことにも対応できている状況である。職員のスキルアップについては、本日も上川教育局職員を講師として招き、社会教育関係職員の学習会を開催している。

次に、外部人材や企業等の協力による体験的学びの提供については、その1つとして、今年度はトヨタ自動車士別試験場の協力による自然観察会を実施している。

次に、特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実に向けて、特別支援学級設置校

連絡協議会の活動の活性化が必要と考えるなか、コロナ禍の影響により合同学習が実施できずにいたが、6月19日に合同ゲーム学習を実施した。特に小規模校の児童生徒及び保護者にとって、この事業の有用性が高いところでもあり、引き続き設置連で連携を取って事業を進めて欲しいと思っている。

次に、士別東高校だからこそできる教育の推進については、本年度、学校運営協議会の会長に前教育長職務代理者の五十嵐紀子氏が選任された。教育振興会については、地域の企業や皆さんの理解と協力でなりたっているが、昨年度から、新たに地域内の4社にも協力をいただいているところ。

次に、社会教育について、子ども達のキャリア教育と豊かな体験活動の推進では、士別ふるさと体験広場として自然歴史体験・文化芸術体験、職業体験のそれぞれ6回で計18回の活動が展開される。これら以外に、高速道路の工事に関わっている企業の協力により、今年度も高速道路現場見学会が開催される。

次に、青年層や高齢者の学びの推進について、九十九大学では最後の卒業生を送り出すことになる。本年度は、最後の卒業式と閉校式の挙行を予定している。多額の予算は計上していないが、大々的でなくても、心の込もった式典をめざして、今後具体的な内容の検討を進める。

次に、幅広い世代の主体的な学習活動の促進では、「まなび☆ガイド」の活用がコロナ禍でなかなか進まなかったが、今年度はPTA行事あるいは学年行事などが再開されるなかで、活用が図られており、7件の申請があったなか、5件が実施予定となっている。

次に、スポーツ振興について、市民皆スポーツの実現に向けた機会づくりでは、オリンピックムーブメント関連で10月9日を最終日とした1週間程度の期間で、市民のスポーツ活動や運動の習慣化に向けたイベントを組むべく検討を進めている。直近の事業としては、健康スポーツの啓発活動として、ハーフマラソンと連動する「健康づくり講演会」として、7月19日18時から市民文化センターにおいて、順天堂大学医学部非常勤講師・薬学博士の玉谷卓也先生に「健康長寿～腸内環境と運動」を演題に、講演をいただく予定である。

次に、各種スポーツ教室やオリンピック教室等の実施について、合宿選手によるスポーツ教室では、昨年同様に日本郵政グループには士別南小学校、ダイハツ工業には士別小学校で実施いただく予定であり、現在日程調整中である。温根別小・上士別小・多寄小・糸魚小についても、チームを選定して実施していく。

また、本年度から市民による合宿サポート隊の活動が開始される所であり、大きな力になるものと期待している。合宿選手を身近に感じることができるイベントとして、コミカミノルタに協力をいただき、昨年度初めて実施した「ジョイラン交流会」を、今年度

は7月29日に積水化学の協力を得て実施する予定となっている。

次に、文化・芸術の振興については、サンライズホールの指定管理者でもある舞藝舎に委託しているアウトリーチ活動やワークショップ活動である「子ども芸術劇場」を本年度は40件実施予定である。その中で、先日「鬼太鼓座」のワークショップがあり、小学校・中学校の児童・生徒が指導を受けた。あわせて、パントマイミストの山田ヒデノリさんによるワークショップも実施した。本年度は、特徴的な事業として、民主音楽協会のコンサートが本市で開催されることになっている。「民音学校コンサート」として、今年50周年を迎えるところであり、全国で初開催されたのが士別市だったこともあり、道内唯一、本市で実施される。具体的には、8月29日から9月1日までの日程で、市内小中高において、フルートとピアノの演奏会が行われる。また、実行委員会が主催するスロバキア国立オペラが開催される予定となっており、10月15日は文化センターで一般向け公演、翌16日には士別南中学校で歌声を響かせてもらう予定である。

次に、教育・学習環境の整備について、ICTの関係では今年度、上士別・朝日地区において光回線化への取組を進めている。なお、多寄・温根別地区については、昨年度、対応済である。

●渡辺市長

質問やご意見があれば発言願う。

●渡辺市長

次に、(2)「中学校部活動のあり方の検討」について、説明を願う。

●三上部長

先ほど教育の重点でもあった中学校部活動のあり方の検討というところで、学校教育課、社会教育課、スポーツ振興課にて対応にあたっている。今までの経過としては、今年の2月14日に「今後の部活動を考える市民セミナー」を開催し、学校関係・スポーツ関係・文化関係団体や地域・行政に声かけをして約100名の参加があった。3月29日には「第1回士別市児童生徒地域スポーツ・文化活動検討協議会設立準備会」を開催している。7月上旬に開催予定の準備会を経て、「士別市児童生徒地域スポーツ・文化活動検討協議会」の設立に向けて準備を進めていきたい。

●渡辺市長

次に、(3)「朝日地区における義務教育学校」について、説明を願う。

●須藤課長

令和5年5月現在で道内の義務教育学校は24校となる。上川に関しては、比布町、占冠村、富良野市の3市町で義務教育学校を設置している状況である。今後、名寄市においても智恵文が義務教育学校を考えている。

「朝日中学校の現状と課題」として資料を添付している。

次に「朝日地区児童生徒・教職員数の配置見込み」について、将来的に特別支援学級の見込みは立たないため、特別支援がないものとして想定をしている。将来的には児童生徒数が減って、教職員の配置できる人数が限られている状況にある。朝日中学校の現状と課題の資料に学級編制等の道教委の基準として複式学級の基準、教頭配置基準、養護教諭配置基準、事務職員配置基準を掲載しているが、これらのおり基準のおり教職員が配置されるため、なかなか5教科の教員を配置できるかどうか、今後難しいところである。

次に本市の統廃合に関する経過として、温根別中学校・多寄中学校が閉校した際の経過として掲載しているところである。

次に「士別市における特認校指定に関する基本的な考え方」について、居住する住所で通学する学校が決まっているが、特認校については小規模校の特色を希望する児童生徒には指定された通学区域に関わらず特認校に通学することができる制度になる。以前は温根別小学校と上士別中学校が特認校ということで指定をしていたが小学校から中学校へ進学するというので学校が大きく変わってしまうということで、令和4年度より小学校は上士別小学校と糸魚小学校、中学校は上士別中学校と朝日中学校の合計4校を特認校とし、希望すると9年間、同一地域の学校で学び続けられるよう変更しているところである。

朝日地区において義務教育学校とはどういう学校かとの話があり、これまで保護者及び教職員に対しての説明は行ってきたが、市民に対しての説明の機会を今後検討していきたい。

●渡辺市長

次に、(4)「教科用図書の採択」について、説明を願う。

●中峰教育長

4年サイクルで教科書が改訂されるとともに、4年毎に教科書を選定することになっているなか、最終的には、各市町村教育委員会が決定するところであるが、実質的には旭川市を除く上川管内22市町村による第6地区教科用図書採択教育委員会協議会において共通採択をしている。詳細の調査研究は、教科ごとに管理職を含む教員による小委員会において進められている。

以前は、南部は富良野市、中部は東神楽町、北部は名寄市において、事務局を担ってきたところであるが、昨年度から本市が事務局として採択業務を担っている。

●渡辺市長

次に、(5)「各種スポーツイベントの開催」について、説明を願う。

●徳竹課長

資料にあるのは、羊のまち「合宿の里」士別 この夏の4大大会ということで、道北日

報の広告にもなっている。この記事はチラシ・ポスターにして各所にも配架をして、より多くの市民の方々に見ていただいて興味をもっていただきたい。スポーツイベントごとにPRしてきたけれど日程順に7月上旬から8月のお盆までの中で凝縮されたこともあるため、こういった一つのものにまとめ、皆さんに知っていただきたいと思っている。

今年については、合宿の来市関係を道北日報に依頼して記事として毎月掲載していただいている。全て一人でも多くの市民に興味を持ってもらい身近に感じていただきながら会場に足を運んでいただいてトップアスリートの技量を感じていただきたい。

●渡辺市長

次に、(6)「各スポーツ・文化施設」について、説明を願う。

●中峰教育長

公共施設マネジメント計画にも示されているとおり、本市の様々な施設をどう維持管理していくか、特に人口減少が続く中で規模や数の検討のほか、老朽化した施設の更新などについても、どのように対応していくのか課題である中、当面、具体的にはスキー場のあり方や、博物館の開館期間など検討や試行も行っているところ。総合体育館や文化センター大ホールについても検討を進めなければならない。また、施設維持にあたっては、民間企業との連携の一つの形として、企業版ふるさと納税の活用や他自治体でも導入されているネーミングライツについても、数年前からの教育委員会での内部的な検討をさらに進めていくことも必要と考えている。例えば、三望台シャンツェや陸上競技場、野球場についても検討に値するものと考えている。京都においては、公衆トイレにもネーミングライツが導入されている例があるほか、道内でも北海道が管理しているダムに導入している。企業側も行政側もWIN WINとなるような仕組みあれば実現可能なものと捉えられているところ。

●渡辺市長

ひととおり説明を終えたが、全体を通して意見などないか。

●加藤委員

中学校の部活動のあり方について、部活動がとても少なくなっている。子どもたちが活動する場がどんどん少なくなっている。民間の力も必要だと思うけれど行政の力にもある程度力添えをいただき、子どもたちが活動出来る場所や選択肢が少なくなっていくので協力をいただきたい。

民間移行に当たっては、中体連の趣旨と変わってくる場合もある。また、スポーツで進路が決まるケースがある。そういうことを含めて、自分のやりたい活動ができないという環境は厳しいかなと思う。

●渡辺市長

もともとの中学校の部活動の地域移行については、今ある部活動をより良いものにしようという発想ではなくて、教員の働き方改革からきてしまっていることなので、現実的に歪みがあって、民間に移行するときに町によっては専門のトレーナーやコーチを雇用することが考えられる。本来、中学校部活動というのは、どこの学校でも基本的には平等にやれる活動があったが今後、それが崩壊する可能性もある。もともとやっていた中学校体育連盟の趣旨と変わってしまう。その辺も含めて我々地域単体ではできないこともあるかもしれないが、課題を上の方へあげていく必要もあるのではないかと。

●多田委員

部活動のことについて、拠点校方式で部活動の活動場所が他校になる場合、送迎は保護者が対応している。習い事タクシーでの助成があるが、市においても送迎を助成することができれば、保護者の負担も少なくなり、子どもたちの環境も良くなっていくのではないかと思う。

●渡辺市長

今回、習い事タクシーを始めたきっかけが、習い事タクシーの運行時間帯がタクシー運行が混んでいないことが理由のひとつである。特に冬期間、本来保護者が送迎する部分を、公共交通として活用出来ないかということがある。市の助成の話があったが、あくまでも民間業者がやることに関して、行政が入ることによって民業圧迫というのがあり、簡単なことではない。部活動の地域移行にあわせて、行政がやれることはやるけれども、地域・保護者・市内業者それぞれの持ち場でやっていくことも必要だと思う。

●多田委員

保護者も共働きしている家庭が多く、部活動の送迎も特定の保護者がずっと送迎しているケースが見られる。皆さん子どもたちのために協力していただいているが負担が大きいのかなと思う。

●渡辺市長

日常の部活動や大会となると遠征になるので、仕事の関係でどうしても送迎できない家庭もある。家庭の事情を分かっている保護者は送迎を担ってくれるけれども、子どもの送迎が出来ない家庭では、子どもに入部を勧められないケースもある場合がある。

●大橋部長

習い事タクシーについて、今、利用登録を受けている最中で士別ハイヤーでは回りきれないほどの申請がある。今年の実証実験ということで、市街地の移動は300円という値段設定をしている。習い事応援タクシーという名前はどうか。部活動は習い事ではなく教育であるため、名称を含めて実証させていただき、本格運行に向けて協議していきたい。

あと職員でいくと試験的に時差出勤を始めた。例えば地域活動・部活動に携わる職員、少年団活動に携わるような職員がいれば、1時間早く出勤すれば、1時間早く退勤してもいい仕組みを施行的に実施している。

#### ●山田委員

士別の教育の特色をあげる中で士別東高校の存在がある。小規模の学校で運営するのも大変だと思うが学校を頼りにする方も多くなか、施設も工夫・努力しながら維持している。ICTの話もあったがいろいろな面で苦勞が多いと思うけれど、そこは大切にさせていただいて士別市の教育の一環を担える学校にさせていただきたい。

#### ●渡辺市長

建物については、相当年数が経過していることから課題が多いけれども、今後無くすようなことは考えていない。必要としている生徒いるので位置づけを更に明確にすることとどこかのタイミングで校舎をどうするのか検討しなければならない。地域として協力いただいたことももちろんとして設置場所も検討しなければならない。入学する生徒がどのような形が一番使いやすいのか考えていかなければならない。

#### ●馬場職務代理者

東高の話題がでたので、それでいうと市内でも交通の便の良いところに空いている校舎がある。そういうものも利用するのはどうかと思いがちではあるけれども、やはり上士別地域との協力体制が一番大きいのかなと思う。市内の学校に通うよりは、上士別は通学には不便かも知れないけれど、不登校などで学校に通えなかった生徒が何故か東高に行くと毎日登校し授業に参加する、インターシップにも参加するといったことができるようになるソフト面の魅力が東高にはある。その部分を大切に考えていかなければならない。

最近ニュースで心配なテーマとして虐待やいじめなどがあって、案件によっては兇相が関わる話がさきほどあったが、何かあってから接点を持つのではなくそうなる前からプライバシーに配慮した上でいろいろな関係部署がコンタクトをとり情報を持っていた方が良いのではないかと思った。

デジタル教科書や義務教育学校など今まで未知の世界なので見学の良い機会があれば良いと思う。

#### ●渡辺市長

今後、学校関係に限らず様々なところで人口減少による構造の変化もしていかなければならないので教育委員の皆様には教育行政が専門部分だけでも関連して行政の施策にも関わることもあると思うので何か意見等があれば随時いただきたい。

以上で総合教育会議を終了する。

【 会 議 終 了 】